

はあとふるグループ

— 創立80周年記念誌 —

Statement — 宣言 —

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを
“Warm Heart” “Cool Head” “Beautiful Hands” で支援します

はあとふるグループ

医療法人はあとふる

運動器ケア しまだ病院

Tel.072-953-1001
Fax.072-953-1552



Eudynamics ヴィゴラス

Tel.072-953-1007
Fax.072-953-1007



上本町 運動器ケアクリニック

Tel.06-6774-1151
Fax.06-6774-1177



介護老人保健施設 悠々亭

Tel.072-953-1002
Fax.072-953-1911



▷通所リハビリテーション Tel.072-953-0045
▷訪問リハビリテーション Tel.072-953-1002

通所介護 悠々亭

Tel.072-979-7807
Fax.072-953-1911



訪問看護ステーション ハートパークはびきの

Tel.072-953-1004
Fax.072-953-0022



八尾はあとふる病院

Tel.072-999-0725
Fax.072-923-0180



▷通所リハビリテーション

Tel.072-999-0726 / Fax.072-923-0186

▷訪問リハビリテーション

Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180

介護サービスセンター はあとふる

Tel.072-999-8126
Fax.072-999-6118



通所介護 はあとふるプラス

Tel.072-920-7216
Fax.072-920-7256



介護サービスセンター ゆうゆう亭

Tel.072-953-5514
Fax.072-953-1332



羽曳野市西園域 地域包括支援センター

Tel.072-953-1003
Fax.072-955-8301



株式会社はあとふる

▷Eudynamics ヴィゴラス やおstudio
Tel.070-9204-9667

▷訪トレ はあとふる
Tel.070-8924-3358



はあとふるグループ | Q

<https://www.heartful-health.or.jp/>

ヘルパーステーション 悠々亭

Tel.072-931-1616
Fax.072-931-1128



受け継ぐべきもの、
変えていくもの。



80th Anniversary

1946 ≧ 2026 「治る」とは何か？を問い続けた80年。

島田永和から勝田紘史へ。
受け継ぐべきもの、変えていくもの。

1955(昭和30)年、結核療養所「桃園荘」を羽曳野市野々上に開設。「桃園荘」の名前は、このあたり一面に桃の木があったことに由来する。元は学校の校舎だった。運動場もあったし、運動会も行われた。患者さんたちは、校庭の横で花や野菜も植えた。牧歌的な結核療養所だった

Theme1

私たちは、
この80年で、何を築き、
残してきたのだろうか？

その人が求める
「治る」と向き合う

戦後の結核病院から、整形外科・
リハビリテーション・介護ケアへ。

戦後の混乱期の鶴橋に始まり、
羽曳野に移転して、結核の療養所に。
そして内科、整形外科なども持つ
一般病院へと変わっていった

勝田 はあとふるグループは80周年を迎えました。率直な感想をお聞かせください。

島田 僕が知ってるのは80年の半分ぐらいやからな(笑)。僕がここに入職したのは33歳の時。それ以前は親父の歴史やから、僕が80年全部語るといのは、無理やな。

勝田 もともと島田病院は、1946(昭和21)年、太平洋戦争が終わった翌年、鶴橋の駅の近くで始まったんですね？

島田 そう、戦後の混乱の中、焼肉の匂いのするまちの一角や。それから羽曳野に移って、結核の療養所になった。当時は食糧不足や衛生事情もあって、結核は「亡国病」とも呼ばれるほど、患者さんが多かった。抗結核薬も十分でないから、空気のいい郊外で栄養を摂って療養する。それが治療やった。

かすかに覚えてるけど、患者さんら、七輪出して魚も焼いてはった。いまの病院と違って、当時の療養所は、そら、牧歌的なもんやった(笑)。

為す術なくがん患者を見送った
研修医時代
市川先生との出会いが
「動いて治す」の原点

勝田 なぜ整形外科医になったんですか。
島田 大学を卒業した後、手術の道に進みたかったんで、研修は外科を選んだ。だから、がん患者さんも担当した。当時はいまみたいに、がんを本人に告知する時代やない。もはや手術の施しようもない末期がんの患者さんから「先生、私はがんで、もう長いこと生きられへんのと違うんか？」と聞かれる。口が裂けても本当のことは言えないので、仕方なく適当に言葉を濁して…。やがて医者は為すすべもなく、本人は本当のことを知らされることもなく亡くなっていく。その時の無力感と空虚感、これは本当にしんどかった。

勝田 それで整形外科に？

島田 自分の手で患者さんに何かをしてあげられる外科になろうと思って、整形外科を選んだ。そこで市川宣恭先生と出会った。

市川先生はスポーツ医学の先駆者で、1970年代から、腰や肩などの痛みは「動かして治す」という「ダイナミック運動療法」を開

しまだはスポーツ整形で有名な病院で、
憧れでもあった。

発・提唱されていた。痛みがあれば「安静にする」のが基本だった当時は「異端」扱いだったけど、これが僕には響いた。

たとえばピッチャーが肩を痛める。医者は「投げへんかったら痛くないよ」と言う。そら当たり前やん(笑)。でも、投げないというのは、単なる問題の先送りやないかと。ピッチャーやったら、もう一回投げられるようになって初めて「治った」と言える。そういう考え方を市川先生から学んだ。

その時々で目の前にあった
大切なと思うこと一つひとつに
粘り強く取り組んできた
その結果の80年

勝田 私が入職したのは2011年なので、知っているのは15年だけ。ただ入る前から先輩に「島田病院は整形外科で有名な病院」と聞いていました。僕自身もモーグルスキーをやっていて、スポーツ整形に興味があったので、そういう意味では憧れの病院だった。

島田 振り返れば、結核、整形外科、スポーツ整形、リハビリ、介護ケアと、ずいぶん守備範囲は広がった。でもね、最初から理想像を描いていたわけやないんです。その時その時

に、医者として「これはええな、大事やな」と思うことを、もっとたくさんの患者さんに提供したい。それを繰り返してきただけ。目の前に現れる課題や私自身が挑戦してみたいテーマに一つひとつ取り組んできた、その積み重ねの結果がいまなんですよ。

はあとふるグループのあゆみ

- 1946 大阪・鶴橋駅近くで島田医院開設
- 1955 羽曳野市野々上に、結核療養所「桃園荘」を開設
- 1979 現在地・羽曳野市榎山に移転
結核病床のほかに、内科、整形外科、理学療法科併設
- 1980s～ 動いて治す
- 1990s～ リハビリ・高齢者ケアへ
- 2000s～ 治し、支えるケアへ
- 2026 次の世代へ

Profile●1976年スウェーデン・ストックホルム生まれ。幼少期を和歌山市で過ごす。2002年川崎医科大学卒業。卒業後1年間、モーグルスキー選手として転戦。2003年和歌山県立医科大学整形外科入局。済生会和歌山病院、国立南和歌山医療センターなどに勤務。2011年島田病院入職。2018年からフリースタイル・モーグル全日本ナショナルチーム チームドクターに。2020年運動器ケアしまだ病院院長就任。2024年はあとふるグループ副理事長・上本町運動器ケアクリニック院長に就任。

〈専門分野〉人工関節手術(股関節)／整形外科一般
〈専門資格〉日本専門医機構 整形外科専門医、指導医／日本人工関節学会 人工関節学会認定医／日本臨床スポーツ医学会 代議員／日本スポーツ協会 公認スポーツドクター・日本整形外科学会 認定スポーツ医／日本医師会 健康スポーツ医／全日本スキー連盟競技本部情報医科学部医科学サポート委員会専門委員／全日本スキー連盟モーグルチームドクター・公認スキー・スノーボードコーチ1／大阪府スキー連盟評議員

新理事長 勝田 紘史
HIROSHI KATSUDA

動いて治さなあかんのは、
スポーツ選手だけちゃうん！
そこからリハビリや、
高齢者の介護ケアへ広がった

勝田 スポーツ医学から始まった「動いて治す」ですが、島田先生はやがて一般の人向けにも応用していきます。そのきっかけは？

島田 スポーツ選手を診ると、「次の試合までには治そう、戻そう」となる。ケガが治ったらそれで終わりやないんです。勝負の現場へ戻さなあかんし、またケガをせんようにトレーニングしてもらわなあかん。

ある時、ふと気づいたんです。「それって、スポーツ選手だけちゃうん」って。会社員の人が腰を痛めても、回復したら仕事へ戻らなあかん。高齢者だって、もう一回歩きたい、家で暮らしたいという思いがある。ところが当時は、高齢者が入院したら寝かせておくような医療もあった。僕からしたら、動ける人を寝かせておくだけなんて、とんでもない。高齢者でもちゃんと動いてもらった方がええやないか。そこからリハビリ、高齢者の介護ケアへと考え方が広がっていった。



1979(昭和54)年、現在の羽曳野市榎山に移転。結核病床180床のほかに一般病床40床。内科、整形外科、理学療法科を併設。当時としては珍しい大きなリハビリルームも設けられた



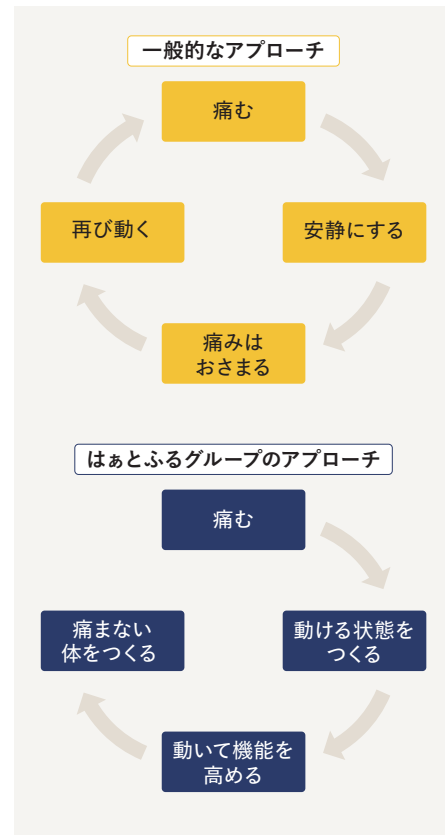
医療者のゴールではなく、 本人のゴールから考える。

この人はどれだけ
動かすことができるか？
「安静度」よりも
「活動度」を聞く病院に

勝田 その考え方は、いまの病院に深く浸透していると思います。たとえば一般的な病院では、新しい患者さんを診たら「この患者さんの安静度は？」と聞く。つまり、どれぐらい安静にしないといけないか。でも、うちは違う。「安静度じゃない。活動度やろ」と。どれだけ活動できるかを診る。僕は、そういう一つひとつの言葉にも、島田先生がつくってきた考え方が表れていると思うんです。それが「治す医療から、治し支えるケアへ」につながっていくわけですね。

島田 そう。ただね、「治し、支える」という言葉は、実は国も使ってるんです。でも、そこで言われているのは、医療と介護をうまくつないで、地域で効率よく支えましょうという話。僕が言いたいのはそうじゃない。患者さんの目線で考える。そこが本質。病院で医者が手術して「はい、無

事成功しましたので退院です、あとは介護で」じゃない。



1983(昭和58)年には、リハビリルームと同じ敷地内に「健康増進クラブ」も開設。これが、現在のEudynamicsヴィゴラスの源流。地域の方や患者さんたちが、医療としてのリハビリを終えた後も、日常的に体を動かす習慣をつけることが目的だった。当時、利用者さんからは親しみを込めて「島田病院は汗臭いめずらしい病院」と評された

「支えるケア」に注力しつつ、 「治す」にもこだわる。

したいことができるまで、
一緒にやろな
その人らしさを叶えるのが
「支えるケア」

島田 そこからが一番大切なところ。本人に聞かなあかん。「で、あなたは何をしたいの？」って。「もう一回ゴルフしたい」「家で暮らしたい」「自分で歩いて買い物

に行きたい」。「よっしゃ、わかった。それなら、それができるようになるまで一緒に頑張ろな」と。だから僕は「治し、支える『医療』」ではなく「治し、支える『ケア』」と言う。

勝田 すごく大事だと思います。ただ一方で私は、「支えるケア」にはいっそう注力しながらも、もう一回「治す」ということにもこだわりたいと思っています。腰が痛い、膝が痛い。でもここへ来れば、何か一つでも「これをやったら良くなるかもしれない」というヒントや方法を見つけて帰ってもらえる。薬でも手術でも、リハビリでもいい。何でもいから良くなってもらおうというところは、諦めずに突き詰めたいと思っています。

島田 そうやな。「治す」と「支える」は別々のものではなく、同じ線上にある。この仕事に関わる人たちの「想いやり」やし、「誇り」やからね。治して、その先の人生にも伴走する。それが「ケア」やし、だからこそ「治し、支えるケア」なんやと思います。



島田病院は、スポーツ整形外科として、オリンピック代表選手をはじめ、多くのアスリートから支持された。写真はオリックス時代から親交の深いイチロー選手と一緒に(2009年)。この年のイチロー選手は、MLB通算2000本安打、日米通算200号本塁打、MLB史上初の9年連続200本安打などの記録を達成



はあとふるグループを知るキーワード

人



初代理事長・島田永廣(ながひろ) (写真右)

1910(明治43)年佐賀県生まれ。名古屋大学医学部卒業。1946(昭和21)年、鶴橋で島田医院開設。結核や神経難病などの支援が届きにくい患者のための医学的ケアを実践。介護老人保健施設 悠々亭のエントランスには、永廣の木彫彫刻像がある。生前に自身の友人の医師で

木彫家の故中野 理先生に依頼して彫ってもらった。2002(平成14)年没。



島田永和の師・市川宣恭(いちかわ のぶやす)氏 (写真右 ※左は島田永廣)

1928(昭和3)年大阪府生まれ。日本のスポーツ医学の先駆者。学生時代はプロボクサーで、同時に柔道6段の腕前を持つなど筋力入りのアスリート。島田永和が大阪市立大学(現・大阪公立大学)勤務時代に指導、島田病院にも非常勤医と

して勤務。遺した言葉「『教科書』を信じるな、“実践”して学びなさい」のとおり、常に臨床と実践データを重視。島田病院の「リハビリルーム」や「健康増進クラブ」は、市川先生の実践の場でもあった。1995(平成7)年没。



安静の向こうにあるのは、
「寝たきり」
「動く」を大切にした
老健をつくった

勝田 「治し、支えるケア」を進めるなかの大きな出来事と言えば、やはり1997(平成9)年の介護老人保健施設 悠々亭の開設ですね。
島田 私が副院長として島田病院に入職したのが1984(昭和59)年4月で、その4年後の1988(昭和63)年4月に院長・理事長になった。悠々亭開設はそこから9年後。もう30年も前のことになるんやな。



地域の人々の心とからだの「動く」を支える

生命寿命でなく、健康寿命でもない。 幸福寿命で考える。

当時の高齢者施設は「老人病院」と呼ばれていた。利用者さんの多くは「安静に寝かされる」ばかりで、やがて「寝たきり」になった。それは違うやろ、と思った。だから「動く」を大切にした老健をつくった。当時では「異端」やったと思います。
その前年には、八尾はあとふる病院との連携も始まっていました。社会の高齢化が進むなか、よりリハビリを意識した治療や高齢者への介護ケアに注力し始めたころだった。
勝田 2007(平成19)年には、その悠々亭を天皇・皇后両陛下(現上皇・上皇后両陛下)が、「新しい取り組み」をしている高齢者施設として視察、行幸啓された。
島田 うちから何かを働きかけてようになったわけではなく、大阪府の関係者から話が上がったようで。そりゃもう、準備も大変やったし、当日はとてつもなく緊張した。でも、私たちの取り組みを世の中に少しでも知ってもらえることは、とてもありがたかったな。



生命寿命・健康寿命・幸福寿命
一番大切なのは幸福寿命
生きてることがうれしいな
そのために、一緒に悩み、考える

勝田 2040年までは高齢化が進み、それ以降は、人口減少の時代に入ります。地域医療構想や効率化・集約化など、医療の提供方法も当然変わっていく。ただ、僕らがやるべきことの本质は変わらない。
その人がその人らしく、自分の人生を全うすることをサポートする。そこは揺るがない。時代に合わせて「どう提供するか」は変わるのかもしれませんが、「何のために提供するのか」は変わらない。
島田 私は最近、「健康寿命」という言葉にも疑問を持ってるんです。身体的にも精神的にも社会的にも問題ない状態が健康と言われても、そんな満点の状態の人、どこにおるんや、と。大事なのは、本人が「生きてることが嬉しいな」と思えることちゃうかな。私はそれを「幸福寿命」と



1997(平成9)年、介護老人保健施設 悠々亭開設。同時に在宅支援センター 悠々亭開設。その後、在宅介護事業を展開



2007(平成19)年8月27日、天皇・皇后両陛下(現上皇・上皇后両陛下)が悠々亭を行幸啓。ご利用者へのやさしいまなざしとお声がけを賜った。また通所リハビリテーションも視察された

医学的には正しい答えでも、 その人に最適とは限らない。

考えているんです。
勝田 だからこそ「その人らしさ」ですよ。医学的に正しい答えを出すことは必要です。でも、それがその人にとって一番いい人生につながるかどうかは、別の問題です。
島田 そう。医者が上から「これをしなさい」と決めるんじゃなくて、治療したらどうなる、しなかったらどうなる。それをちゃんと説明して、本人が選ぶ。僕らはその選択を支える。一緒に考えて、一緒に悩み、一緒に努力する。そういう場でありたいんです。
勝田 それは一人の医師だけではできません。医師も看護師もセラピストも、受付も含めて、それぞれがプロとして力を高める。同時に、誰かがミスしたら周りがすぐカバーできるようなチームでなければいけない。個人の力とチームの力、その両

方が必要です。そしてもう一つ。病院の中だけで完結するのではなく、地域と一緒に取り組む。地域の人たちのヘルスリテラシーを高めて、「みんなで一緒にやろう」とすることも必要です。
病院や施設だけが頑張って健康をつくるんじゃない。これからは、もっと地域と一緒に健康や幸福をつくっていく。それも、はあとふるの大切な役割だと思います。



2002(平成14)年4月、八尾はあとふる病院が現在の八尾市美園町に新築移転。医療保険54床、介護保険55床の完全療養型病床を備えたりハビリ専門病院に

Theme 2
今後の環境下で、
私たちが大切にすべきことは
何だろうか？
その人がその人らしく
自分の人生を全うすることを支える



生命寿命
生きている
健康寿命
自分で生活できる
幸福寿命
幸せを感じながら生きる

「その人らしさ」は、一人ひとり違う
車椅子でも風を感じる
散歩をしたい
大好きな山登り、
自分の脚で頂上に立ちたい
お茶やお花の稽古のために、
キレイに正座したい
孫の顔を見たい、だっこしたい、
一緒に遊びたい

はあとふるグループを知るキーワード

山中伸弥氏
京都大学iPS細胞研究所名誉所長・教授／ノーベル生理学・医学賞受賞
大阪市立大学(現・大阪公立大学)時代の島田永和の後輩。非常勤医として島田病院でも勤務。その後、研究者の道を選び、2012年にはiPS細胞研究でノーベル生理学・医学賞受賞。はあとふるグループが主幹して2025年に開催された「リハビリテーション・ケア合同研究大会 大阪2025」では、特別講演も行った。



井村雅代氏(写真左)
元・アーティスティックスイミング日本代表チーム コーチ

島田病院との出会いは、1999年6月。シドニー五輪に向けた合宿中に、選手の一人が腰を痛めたのがきっかけ。その親交は現在に続く。愛弟子・乾友紀子(写真右)は、2022・2023世界水泳で日本人初となる2年・2大会・2種目連続金メダル獲得。乾は、現在ははあとふるグループの職員として勤務。



※写真は2022年当時

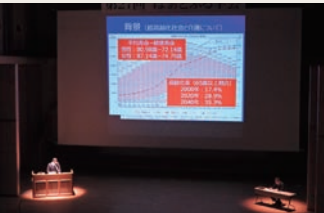
岡田玲一郎氏
元・社会医療研究所所長
※現在の所長は小山秀夫氏

理事長として、経験も知識もない頃のスタッフの考え方を理解し、教育と指導に尽力。海外研修も企画した。2020(令和2)年没。



「今につながる できごと」

●1992年11月 第1回 島田学会「管理元年・学問元年」
現在、はあとふるグループでは、年に1回、グループ内で独自の学会を開催しているが、その原点となった大会。初回テーマ「管理元年・学問元年」。学問元年は、学ぶことを風土としたいという思いがこもったもの。現在は「はあとふる学会」と名称変更。2026年11月で34回の開催を重ねる。(写真は第27回はあとふる学会(2019年))



大会テーマ
「動いてナンボ！動かしてナンボ！
―「動く」が支える 人・地域・日本―

2025(令和7)年11月21～22日、大阪市中央区
マイドームおおさかにて「リハビリテーシ
ョン・ケア合同研究大会 大阪2025」開催。これ
はリハビリや介護ケアに関わる7団体が共同
主催する日本最大級の学会で、島田永和は大会
長を、はあとふるグループはその大会運営
事務局を務めた。
(主催7団体：(一社)日本リハビリテーション
病院・施設協会／(一社)回復期リハビリテー
ション病棟協会／(一社)全国デイ・ケア協会
／(一社)日本訪問リハビリテーション協会／
全国地域リハビリテーション研究会／全国地
域リハビリテーション支援事業連絡協議会／
NPO法人 日本リハビリテーション看護学会)



Theme3.

80年の時空を越えて、
守るもの・変えていくものとは
何だろうか？

80年のバトンを
変えずに、変えながら、次へ



2024(令和6)年9月、大阪市内・天王寺区上本町に「上
本町 運動器ケアクリニック」を開設。羽曳野・八尾を
飛びだして、「動いて治す」という考え方を大阪へ、さ
らに全国へ。院長・勝田紘史の指揮のもと、スタッフ
は患者さんに向き合いながら、公開セミナーなどの
地域活動も続ける

守るもの・変えるものは何か？ 日々、真摯に向き合う。

島田先生と同じことは
私にはできないし、しない。
忘れずに大切にしたいのは、
立ち返るべき魂

島田 これまで私も、多くの医者を見て
きました。勝田君はアスリートだったか
らわかると思うけど、スポーツ医学は、そ
の人が「やりたい」と願うことに近づけて
あげる医療です。私はそこを起点に高齢
者や障害のある人へと考えを拡げていっ
たんですけど、勝田君にも「動いて治す」
を信じる同じ匂いを感じるんや。信頼で
きる人に次を任せられる私は幸せですよ、
ホントに。

勝田 ありがとうございます。やはり、私
にとっての島田先生は「師匠」です。島田
先生って、一つの問題だけを見ないんで
すよね。その問題がなぜ起きているのか、
その背景には何があるのか、広いところ
から俯瞰して考える。

それと、言葉をものすごく大事にされ
る。私はそこまでの確に言葉を選べない。

島田 そうか？ なんか、こそばゆいなあ。

勝田 島田先生と同じようには振舞えな
いし、やろうとも思っていない。人に伝
える力は島田先生には遠く及ばなかった
としても、その手前にある「魂」は同じで
ありたいと思います。

僕はよく「飛び箱」のように考えるん
です。島田先生が先代から病院を受け継い
だ時を1段目としたら、島田先生はそれを
いっぺんに10段、15段まで積み上げた。私
はその15段目からスタートできる。僕の
仕事は、この15段の上に、島田先生と同じ
やり方で再び15段積みあげることじゃな
い。5段でも3段でもいいので、自分なり
の箱を積むことです。その飛び箱を支える
背骨が、「その人がその人らしく、自分
の人生を全うすることを支援する」。これ
は羅針盤みたいなものです。迷ったら、こ
こへ立ち返る。僕らは何のために医療を
やっているのか。そこから時代に合った
方法を考えていく。それが僕にとっての
「受け継ぐ」ということです。



新たな療法や技術と、
人にしかできないことの融合。
そこは青臭く泥臭く、
もがき続けたい。

島田 進化させたいものもあるのでは？

勝田 新しい治療法や技術もどんどん取り
入れていくつもりです。2021年からは、再生
医療「APS療法」にも取り組んでいます。患
者さんの血液から採取した血小板を高濃度
培養し、ひざに注入して痛みを改善する治
療法です。これまでは、運動療法や薬物療
法では回復が見込めない場合には、手術に
頼らざるを得ませんでした。もう一つの選
択肢を示すことができます。また2023年には、
人工膝関節全置換の手術支援ロボット
「VELYST™RAS」も導入しました。侵襲性が
低いので術後回復が早く、そのぶん「動いて
治す」が実現しやすくなりました。2026年に
八尾はあとふる病院に導入した歩行リハビ
リ支援ロボット「ウェルウォーク」は歩行ト
レーニング用の最先端機器ですが、これに
より「もう一度歩きたい」という希望を持っ
てもらえます。

患者さんや利用者さんの思いに寄り添う
という魂はそのままだ、新たな療法や技術も
導入して、次世代の「動いて治す」を実現し
ていく。そして「もう一度がんばろう」と前向
きになってもらう。新たな療法や技術と、人に
しかできないことの融合。そこは青臭く泥臭く、
もがき続けていきたいですね。

島田 僕はね、「今日一日が終わってよ
かったわ。よし、明日もなんとかしよう」っ
て。気がついたら40年経ってた。結局、毎
日の連続なんですよ。改革せなあかんこ
とは何で、守らなあかんことは何か。それ
を毎日考える。その積み重ねしかないん
ちゃうかな。

勝田 そうですね。だからたとえば100周
年を迎えた時に、僕も「ほんまに目の前の
ことを一つずつやってきたんやなあ」と
同じように言えたなら…。その時は、僕も
成功やったと言えるのかなと思います。

はあとふるグループを知るキーワード

- 2007年4月 使命・理念・基本方針策定
- 2011年4月 使命・理念・基本方針改訂

1988年の理念が成長し、
現在のはあとふるグルー
プの「魂」となっている使
命・理念・基本方針が定
められた。



- 2008年6月 「痛い腰・ヒザ・肩は動いて治せ」出版

島田永和 初の新書本「痛い腰・ヒザ・肩
は動いて治せ」(朝日新書)出版。これまで
の活動のまとめとして「動いて治す」
という概念を世の中に発信。腰巻には当
時のバトミントン界のヒロイン「オグシ
オ」と一緒に「身体は動かしてナンボ
や!」。全国への発信活動も本格化した。



- 2015年2月 島田病院建て替え着工 地鎮祭

建物も老朽化し、また増え
る手術に対応できない手
術室などの諸問題を解決
するため、島田病院の全棟
建て替え工事が始まる。



- 2017年11月 医療法人名・病院名変更

「医療法人永広会」から「医療法人はあとふる」へ
「島田病院」から「運動器ケア しまだ病院」へ
「Eudynamicsはびきのヴィゴラス」から
「Eudynamicsヴィゴラス」へ。

- 2018年1月 「運動器ケア しまだ病院」「Eudynamicsヴィゴラス」落成記念式

全棟リニューアル完成 現在の姿へ。



新理事長 勝田紘史の横顔



〈略歴〉
1976年12月10日
スウェーデン・ストックホルム生まれ
幼少期を和歌山市で過ごす(雑賀小学校・西浜中学)
岡山県倉敷市 川崎医科大学附属高校(全寮制)
2002年 川崎医科大学卒(国家試験合格後)
モーグルスキー選手として転戦
2003年 和歌山県立医科大学 整形外科入局
済生会和歌山病院・阪南市民病院・和歌山労災病院・国立南和歌山医療センター
2011年 島田病院(副院長)入職
2014年 全国整形外科病院を研修
2018年 運動器ケアしまだ病院院長就任
フリースタイル・モーグル全日本ナショナルチーム チームドクター
2020年4月 運動器ケアしまだ病院 院長就任
2024年 はあとふるグループ 副理事長就任
上本町運動器ケアクリニック院長就任

新理事長・勝田紘史とは、
どんな人物なのか、医師なのか？
その「人となり」を知っていただくために、
生い立ちから少年期、医学生時代、
そして現在に至るまでの歩みをまとめました。
その経験のなかで育んできた秘めたる思いや、
情熱を感じていただけると幸いです。

生い立ち・幼少期・少年期

1976(昭和51)年12月10日。
勝田紘史はスウェーデン・ストックホルム
カロリンスカ病院で生まれた。
実家は、和歌山県那賀郡粉河町(現・紀の
川市)。1920(大正9)年、曾祖父・穰(みのる)に
始まり、4代続く「勝田胃腸内科外科医院」だ。
小学校の時、紘史を夢中にさせるものに出
会った。スキーである。
小さなころから、医師になることは決めてい
た。中学校に入ると勉強に追われ始め、ス
キーから遠のいた。勉強よりも体を動かすこと
が好きだった紘史は、一度だけ父に「医師と

川崎医科大学時代・卒業後

大学時代に夢中になったのが、モーグルだ。
高校時代はバスケットに夢中になったが、
大学生1年生の時、バスケ部の先輩からス
キー場に誘われた。久しぶりの雪山で血が
騒ぎ、そこで出会ったのがモーグルだった。そ
れからは毎週のように雪山へ出かけ、すっかり
小学生の頃の「スキー少年」に戻っていた。
大学を卒業し、無事に医師免許を取得した。
しかし、紘史が選んだ進路は、モーグル
選手としてオリンピックをめざす道だった。
卒業後1年間は、冬は日本、夏は南半球、春

はあとふるグループへ

勤務医時代、大学の同級生だった島田永
和の長女・芙紗と結婚した。しばらくして、島
田病院が有名なスポーツ整形外科だと知った。
スポーツ整形外科という領域を活動のステ
ージとしたい。2011(平成23)年、副院長とし
て島田病院に入職した。アスリート経験とス
ポーツ整形外科への情熱を持つ紘史らしい
選択だった。
島田病院の建て替えプロジェクトが動き始
めた2014年。紘史は、国内外20以上の病院・
施設へ研修の旅に出た。新しい病院には、ど
んなレイアウトや作業動線、機能や設備を採

は違う仕事に就きたい」と相談した。
「医師免許を取ってから考えたらどうだ?森
鷗外は、医者でありながら作家としても大成し
た。そうした道もあるぞ」。
うまく言いくめられた気もしたが、少し勇
気も湧いた。そして、紘史が日本中の高校を探
して選んだのは、川崎医科大学附属高校。日
本で唯一の医科大学附属高校である。
「ここに入れば、そのまま医科大学に入学で
きる。そうすれば好きなことも時間を使える」。
そう考えた。「安直ですね、若気の至りです。
いま考えるとはずかしいですね」。

と秋はヨーロッパやカナダへ。雪のある世界各
地を転戦した。1年が経ち、26歳になった。選
手寿命の限界も感じ始めていた。「競技生活
のなかで、ヘリで緊急搬送されるほどの大け
がを負う選手をたくさん見てきました。医師で
もある私なら、後進のケガの治療はもちろん、
傷害予防やフィジカルトレーニングなど、でき
ることはたくさんある。そう思ったんですよ」。ス
ポーツ整形外科への目覚めだった。
アスリート生活に別れを告げて、医師の世
界へ戻った。

り入れればよいのだろう。そのノウハウを吸収
するための「道場破り」だ。
「これから『いいとこどり』したのが運動器
ケアしまだ病院です。手術室、診察室、患者
さんの待合室、リハビリルーム…。細部にまで
知恵と工夫が宿っています。納得してつくりこ
めた病院なんですよ」。
2018(平成30)年からは、フリースタイル・
モーグル全日本ナショナルチームのチームド
クターも務めている。整形外科医としてはもち
ろんだが、紘史が望み描いたスポーツ整形医
としてのステージも、まだまだ広がっていく。



紘史が生まれたスウェーデン・ストックホルム
カロリンスカ病院。医師の父・勝田仁康(ひと
やす)が、カロリンスカ病院外科に留学中のこ
と。母・賀津子(かつこ)に抱かれてた一枚。ス
tockホルムには紘史が1歳になるまで、父・
母・兄と一緒に4人で暮らした



1920(大正9)年、曾祖父・穰が開院
した当時の勝田医院。穰は当時は
珍しかったバイクに乗って往診に出
かけていた



和歌山県・粉河町(現・
紀の川市)の実家「勝田
胃腸内科外科医院」。
現在は兄・将裕(まさひろ)
が院長を務める



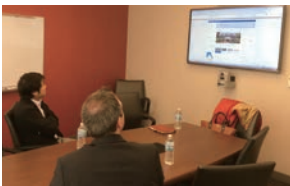
小学生時代。人と違ったことがし
たいと思い、雪の降らない和歌山
県出身者がスキーを始めて、夢中
になった。写真は小学校3年ごろ。
北海道にて父と兄と3人で(真ん
中)。6年生の時には、最上位の技
術レベルを県内最年少で獲得した



活発な子だった紘史は、勝田胃腸
内科外科新築竣工パーティでは
スピーチも担当。また、地元の「粉
河祭り」では、総勢400人以上が
町を練り歩く「渡御式」の稚児武
者も務めた



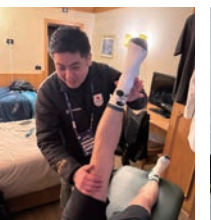
医師免許取得後1年間は世界を転戦した。
左上の写真は、当時の日本モーグルの
トップ選手「モヒカン小林」さん(小林茂
選手・元全日本モーグルナショナルチ
ームコーチ)と一緒に。小林選手は紘史の
憧れの選手の一人だった
しかし、しだいに選手寿命の限界を感じ
始めていた。「いま競技生活を終えたとし
ても、医師資格を持つ私は、ずっとこの競
技と関わることはできる」。それが医師の
世界に戻った理由だ



建て替えプロジェクトの際には、国
内外の病院と施設を20カ所以上視
察する武者修行に出た。それぞれ2
〜3週間、隔々まで見学。実際に手
術にも立ち合い、もっとも適したレ
イアウトや作業動線、設備・施設な
どをチェックした。運動器ケアしま
だ病院には、この時に見たもの・聞
いたもの、気づいたこと・ひらめい
たことが注ぎ込まれている



2018(平成30)年からは、フリース
タイル・モーグル全日本ナショナル
チームのチームドクターに。ミラノ・
コルティナオリンピック2026も帯
同。この大会で銀メダル・銅メダル
を獲得した堀島行真選手も絶大な
信頼を寄せるスポーツドクターだ



「実は、義父となる島田先生がどんな
医師なのかはよく知らなかったん
ですよ(笑)。整形外科医の先輩から、
『島田病院って、全国的にも有名なス
ポーツ整形外科だよ』と言われ、初め
てそのすごさを理解したんです」

